

## 第二次すみだ環境の共創プラン 基本目標 進捗状況評価（抜粋版）

### 【 基本目標 1 】

脱炭素社会の実現に向けたまちづくりが進み、あらゆる人が行動するまち

○墨田区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の数値目標

2030（令和12）年度までに2000（平成12）年度比で  
 区域におけるエネルギー消費量を 50% 削減する  
 区域における温室効果ガス排出量を 50% 削減する



### 【 個別目標 】

- 1-1 家庭での脱炭素化を促進する
- 1-2 事業所での脱炭素化を促進する
- 1-3 脱炭素型のまちをつくる

### 【 環境事業指標 】

指標	基準値 2000 （平成12）年度	前年度実績値 2019 （令和元）年度	最新年度実績値 2020 （令和2）年度	目標値 2030 （令和12）年度
区域におけるエネルギー消費量（TJ）	17,187	11,749	11,494	8,593
家庭における一世帯当たりのエネルギー消費量（MJ/世帯）	40,739	27,841	28,712	18,784
業務における床面積1㎡当たりのエネルギー消費量（MJ/㎡）	1,166	970	905	598
区域における温室効果ガス排出量（千t-CO <sub>2</sub> eq）	1,265	1,171	1,138	632

※ 実績値はオール東京62市区町村共同事業みどり東京温暖化防止プロジェクトにおいて調査、公表された数値（直近は2020（令和2）年度分）をもとに算出している。

### 【 令和4年度実績 ※最新（令和2）年度実績 】

2020（令和2）年度の温室効果ガス排出量は、基準年度比（2000（平成12）年度）で-127千t-CO<sub>2</sub>（▲10.0%）、前年度比（2019（令和元）年度）で-33千t-CO<sub>2</sub>（▲2.8%）となり、微減傾向が続いている。

## 【 令和4年度評価 ※最新（令和2）年度実績の評価 】

エネルギー消費量は基準年度（2000（平成12）年度）と比べると、区人口が増加しているものの、減少傾向である。一方、2020（令和2）年度は減少が続いていた、家庭における一世帯当たりのエネルギー消費量が増加した。墨田区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の数値目標達成に向け、区民の節電の取組や省エネ設備・機器の普及等を促進するため、引き続き区ホームページ等で普及啓発を行う必要がある。

## 【 今後の計画 】

温室効果ガス排出量は、排出量の算出に用いられる二酸化炭素排出係数の影響を強く受けるものであり、係数の改善に当たっては、国のエネルギー政策によるところが大きい。区としては、区民や事業者によるエネルギー消費量削減の取組をさらに推進していくことで、温室効果ガス排出量の削減を目指す。

また、本区の温室効果ガスの状況は民生部門（家庭・業務）からの排出が全体の約6割を占めていることから、民生部門の温室効果ガス削減に重点を置き、本プランにある取組の着実な推進や強化策の検討及び国や都と連携した取組も引き続き推進していく。

## 【 基本目標 2 】

気候変動に適応し、安心して過ごせるまち



## 【 個別目標 】

- 2-1 気象災害に強いまちをつくる
- 2-2 気温が上昇しても快適に過ごせるまちをつくる
- 2-3 節水と雨水の有効活用を推進する
- 2-4 一人ひとりが気候変動への適応の理解を深める

## 【 環境事業指標 】

指標	2020 (令和2)年度 実績値	前年度実績値 2021 (令和3)年度	最新年度実績値 2022 (令和4)年度	目標値 2025 (令和7)年度
住民意識調査において「大雨や荒川の氾濫等による大規模な水害時の避難方法等を知っている」と回答した区民の割合(%)	33.0	—	34.2	50.0
雨水総貯留容量(m <sup>3</sup> )	25,490	26,114	26,304	30,000
みどり率(%)	20.8※	—	—	20.9

※ 10年に一度程度実施している「墨田区緑と生物の現況調査」による平成30年度のみどり率

## 【 令和4年度実績 】

雨水総貯留容量は、26,304 m<sup>3</sup>となり、前年度と比べて190 m<sup>3</sup>増加した。

8月1日から8月31日を「すみだ打ち水推進月間」とし、各家庭や小団体に対して、雨水を利用した「お家de打ち水」の実施を促すため、区報や区ホームページ等で普及啓発を行った。

## 【 令和4年度評価 】

雨水総貯留容量は、雨水利用助成制度の利用と墨田区良好な建築物と市街地の形成に関する指導要綱（以下、「開発指導要綱」という。）及び墨田区集合住宅の建築に係る居住環境の整備及び管理に関する条例（以下、「集合住宅条例」という。）による雨水貯留槽設置の指導により、前年度と比べて増加した。

新型コロナウイルス感染症の影響から、打ち水イベントの実施はなかったが、雨水や二次利用水の効果的な利用普及を促すよう、区報や区ホームページ等で普及啓発を行った。

## 【 今後の計画 】

雨水の有効活用については、雨水先進自治体として、「都市型洪水の防災対策・地域水循環の再生」の課題解決のため、更なる雨水利用の推進を図り、都市のミニダム機能の強化をめざしていく。

引き続き、建築物断熱改修、緑のカーテン及び気候変動等に関する情報を区報や区ホームページ等で情報発信し、快適・安心して過ごせるまちとなるよう、普及啓発を行う。

## 【 基本目標 3 】

### 水と緑が暮らしに寄り添うまち



## 【 個別目標 】

- 3-1 緑の満足度を向上させる
- 3-2 生物多様性の重要性や、生物との共生に理解を深めている人を増やす
- 3-3 水や緑のうるおいを感じられるまちをつくる

## 【 環境事業指標 】

指標	2020 (令和2)年度 実績値	最新年度実績値 2022 (令和4)年度	目標値 2025 (令和7)年度
住民意識調査における「生活環境評価：緑の豊かさ」で「やや良い・良い」と回答した区民の割合(%)	27.2	28.5	29.2
生物多様性という言葉の認知度(%)	45.3	28.9	46.5
みどり率(%)	20.8※	—	20.9

※ 10年に一度程度実施している「墨田区緑と生物の現況調査」による平成30年度のみどり率

## 【 令和4年度実績 】

開発指導要綱、集合住宅条例に基づく緑化指導により、地上部で9,026.13㎡、建築物上で1,916.63㎡の緑地が整備された。

まちなか緑化の活動地域は、23地域となり、前年度と比べて3地域増加した。

## 【 令和4年度評価 】

引き続き、開発指導要綱等に基づく緑化指導を継続し、緑地整備を進めていく。

生物多様性という言葉の認知度は、2020年度実績値を大きく下回る(▲16.4%)結果となった。2020年度実績値は環境フェアでのアンケートにて集計したため、比較的環境への関心が高い方々が回答した結果である。一方、最新年度実績値は令和4年度の墨田区住民意識調査に新たな質問項目として、幅広い層の方々が回答した結果であるため、数値が2020年度実績値より下回ったと考えられる。

まちなか緑化の活動地域数は、前年度から増加し、中間目標値も達成した。区内における緑感は、緩やかではあるが着実に向上しているものと考えられる。

## 【 今後の計画 】

公園・公共施設の新設や改修工事及び都市計画に基づくまちづくりの際には緑地(地上部、屋上・壁面緑化)の整備を進めていくとともに、民間事業者に対しては、開発指導要綱等に基づく緑化指導による緑地の整備を引き続き働きかけていく。

まちなか緑化については、広報等を通じてまちづくり公社等の関係機関の協力を得ながら、新規活動地域の募集を進めるとともに、既存地域に対しては、活動定着のために各地域の実情に応じた支援内容を検討していく。

## 【 基本目標 4 】

### 省資源・循環型社会を実現するまち



## 【 個別目標 】

- 4-1 ごみの発生抑制と有効利用を促進する
- 4-2 省資源・循環型社会の実現に協働で取り組む

## 【 環境事業指標 】

指標	基準値 2018 (平成30)年度	前年度実績値 2021 (令和3)年度	最新年度実績値 2022 (令和4)年度	目標値 2025 (令和7)年度
区民1人1日当たりごみ総量 (g)	677	668	650	633
区民1人1日当たり区収集ごみ量 (g)	548	536	524	513

## 【 令和4年度実績 】

ごみ総量(可燃・不燃・粗大ごみ、資源物)は、前年度と比べて1,655t減量となった。

## 【 令和4年度評価 】

前年度と比べて、ごみ総量(可燃・不燃・粗大ごみ、資源物)が減量となったため、墨田区一般廃棄物処理基本計画(第4次計画)における最終目標値に向けて、計画どおり推移している。

## 【 今後の計画 】

令和3年4月に策定した墨田区一般廃棄物処理基本計画(第4次計画)では、不要物の発生そのものを減らすことを目的とし、3Rの中でも優先度の高い2Rの取組を中心とした施策を盛り込んでいる。

今後は、令和5年10月から区内一部地域で廃プラスチック分別収集・再資源化モデル実施を行い、本格実施に向けて各種課題等を検証し、令和6年度から区内全域での本格実施を行う。また、食品ロス削減に関する検討を進め、更なる廃棄物の減量及び循環型社会の実現をめざしていく。

## 【 基本目標 5 】

良好な生活環境が確保され、健康でやすらぎが実感できる住みよいまち



### 【 個別目標 】

- 5-1 健康でやすらぎを実感できるまちをつくる
- 5-2 景観に配慮したまちをつくる

### 【 環境事業指標 】

指標	2020 (令和2)年度 実績値	最新年度実績値 2022 (令和4)年度	目標値 2025 (令和7)年度
住民意識調査における「生活環境評価：騒音・振動」で「やや良い・良い」と回答した区民の割合(%)	24.5	26.8	30.0
住民意識調査における「生活環境評価：大気汚染」で「やや良い・良い」と回答した区民の割合(%)	19.9	20.4	25.0
住民意識調査における「生活環境評価：景観・まちなみ」で「やや良い・良い」と回答した区民の割合(%)	33.7	37.1	40.0

### 【 令和4年度実績 】

道路交通騒音常時監視(8区間)について、幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準達成率は、昼間37.5~100.0%、夜間19.6~100.0%であった。

道路交通騒音調査(17か所)について、2か所で夜間における騒音の要請限度を超えていた。

大気汚染常時監視について、環境基準が設定されている項目(SO<sub>2</sub>, NO<sub>2</sub>, SPM)については、環境基準を満たしていた。

民間建築物アスベスト調査助成事業について、助成件数は4件であり、前年度より1件減少した。

ダイオキシン類調査(2か所)について、大気環境基準値(0.6pg-TEQ/m<sup>3</sup>)を超えた地点はなかった。

大気中の有害物質調査(2か所2回)について、環境基準が設定されている有害大気汚染物質は、両地点とも、すべて環境基準を満たしていた。粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)については、夏季・冬季それぞれ1週間の測定のため、単純に年平均値との比較はできないが、環境基準の1日平均値は満たしていた。

工場設置・変更認可件数は24件、指定作業場設置・変更届出件数は16件であった。

公害苦情処理件数は379件であり、前年度より24件減少した。

**【 令和4年度評価 】**

工場や指定作業場に対し、公害防止の指導を適切に行った。

区民等からの公害苦情に対しては、解決に向けて迅速かつ適切に対応した。

**【 今後の計画 】**

環境調査及び民間建築物アスベスト調査助成事業について、今後も実施する。

設置・変更認可申請をした工場や、設置・変更届出をした指定作業場等に対し、公害の未然防止に向けて指導する。

区民等からの公害苦情に対しては、解決に向けて迅速かつ適切に対応していく。

## 【 基本目標 6 】

### 環境活動を実践する人が育つまち



## 【 個別目標 】

- 6-1 環境教育・環境学習を推進する
- 6-2 協働による環境活動を推進する

## 【 環境事業指標 】

指標	2020 (令和2)年度 実績値	前年度実績値 2019 (令和元)年度	最新年度実績値 2022 (令和4)年度	目標値 2025 (令和7)年度
環境ボランティアの登録者数 (名)	110	110	110	135

## 【 令和4年度実績 】

環境ボランティア登録者数は、緑と花のサポーターは46名で前年度から増減無し、この他のボランティアについては多少の増減はあるものの、登録者数に変動はなかった。

環境体験学習の実施状況は、新型コロナウイルスの行動制限が緩和されたことを受け、令和3年度に引き続き水の循環講座、夏休みすみだ環境プログラム、すみだ自然観察会を実施したほか、コロナ禍で中止としていたエコライフ講座、トンボフェア、森林整備体験や燃料電池自動車を活用した水素利用の普及啓発等を実施した。

令和4年4月から、小中学生向けの環境学習WEBページ「すみだ環境学習ツール」を公開し、環境教育・環境学習を推進した。

## 【 令和4年度評価 】

環境ボランティアの登録者数が伸びない原因として、ボランティアの高齢化が進んでいることや、情報発信が充分でないことが挙げられる。

また、環境体験学習については、新型コロナウイルスの行動制限が緩和されたものの、まだまだ外出自粛の気運もあり、コロナ前並みの規模での開催に至らなかったこと、参加者が伸びなかったことが挙げられる。今後は、環境啓発講座の開催数をコロナ前並みに増やしつつ、より身近で関心を持ちやすい内容にするなど、区民の参加意欲を高めるよう検討していく必要がある。

## 【 今後の計画 】

環境ボランティアについては、区から積極的に情報発信を行うなどして参加意欲を高めるよう検討するとともに、啓発講座等の各事業において募集活動を行い、登録者数の拡大を図る。

環境教育、環境学習については、事業内容を引き続き参加体験型で、環境問題を自分事として身近に感じ、実践につなげやすい内容とするなど、工夫しながら実施していく。

すみだ環境学習ツールや区ホームページについて、内容の充実化や最新の情報への更新を行い、環境教育・環境学習を推進する。